

自治医科大学附属さいたま医療センター



麻酔科・集中治療部 後期研修プログラム

代表：村山 隆紀 リクルート担当：讃井 将満

<http://www.jichi.ac.jp/center/index.html>

E-mail: masuika@omiya.jichi.ac.jp

TEL: 048-647-2111 FAX: 048-648-5188

研修の特徴

当センターは自治医科大学の附属病院の一つでありながら、非常に臨床色の強い病院です。特色は、心臓大血管外科症例が豊富（開心術年間350例）なことです。本年度新病棟がオープンし、産科、小児科もスタートしました。今年度末には、手術室およびICU/CCUが拡充され、さらに豊富な症例を経験出来るようになります。また、2007年4月から、心臓外科をはじめとする各種外科の周術期および内科系重症多臓器不全を対象に、EBMにもとづいた診療と教育をメインテーマに掲げる、専属ICUチームが発足しました。また、呼吸サポートチーム（RST）、周術期エコーチーム（PET）を通じ、メンバーの教育に最大の力を注ぐとともに、診療レベルの向上に寄与し、センター内の急性期医療の中核をになっています。

モットー

医局は小さく非常にアットホームな雰囲気、以下の3か条をモットーとしています。

1. 来るものは拒まず、去る者は追わず（将来、麻酔科医として開業したい人にも最適です）
2. やりたいことをやりたいだけ、やりたくないことはやらせない（本人の指向を最大限尊重します。たとえば、大学附属病院といっても、学業・研究は全く強制されません）
3. やる気があれば、なんでもやらせ、どこまでもサポートします（やる気があれば、手技も驚くほどドンドンやらせますし、研究でも留学でも援助を惜しみません）

後期研修コース

1. 麻酔コース：

2年間の基礎麻酔研修終了後、心臓麻酔、小児麻酔、産科麻酔、日帰り麻酔、ペインなどのサブスペシャルティ研修を行い、麻酔専門医およびそれぞれのサブスペシャルティ専門医を目指すコースです。

2年間の麻酔基礎研修では、附属さいたま医療センターを中心に各協力病院を回り、各科の麻酔および集中治療の基礎を広く勉強します。その間に自分が将来何をを目指したいか、考えてもいいでしょう。教育に力を注ぐスタッフが責任を持って指導します。その後の2～4年のサブスペシャルティ研修を終えれば、一流の臨床麻酔科医になることができます。

2. 集中治療コース：

将来、集中治療を専門にしたい人のためのコースです。集中治療研修をベースに、呼吸、循環、血液浄化、代謝・栄養、感染などのサブスペシャルティ研修を行い、集中治療専門医およびサブスペシャルティ専門医を目指します。麻酔科医である必要はありません。

モットーは、世界標準の集中治療をできるだけわかりやすく教え、真摯に実践していくことです。Alan Lefor 教授（米国外科・集中治療専門医）のもと、米国集中治療フェローシップ修了者が徹底的に教育します。

3. 麻酔・集中治療コース：

2年間の麻酔の基礎研修の後、麻酔科専門医および集中治療専門医の両方を目指す人向けです。

4. 救急・集中治療コース：

救急および集中治療の両方を学びたい人のためのコースです。当センター救急部および他施設での救急研修を含みます。当センター救急部には、当麻酔科・集中治療部から1人が常勤スタッフとして加わっています。救急部も拡充され、さらに豊富な症例を経験することが可能です。

5. アカデミックコース：

麻酔あるいは集中治療の基本研修を終えた後、基礎研究や臨床研究に従事し、学位を取得したい人のコースです。自治医科大学大学院に入学するか論文により博士号取得を目指します。海外研究留学もサポートします。

6. 海外臨床留学サポートコース：

麻酔や集中治療の専門医取得を目指しながら、海外臨床留学の準備をしたい人のコースです。Alan Lefor 教授およびWilfred Fujimoto 客員教授（米国内分泌代謝専門医）の回診やレクチャー、集中治療部で行われるミニ英語回診で本場の臨床英語を学ぶことができます。海外留学しなくても、国際学会で討論ができるレベルの英語力を身につける。

これらはあくまで典型例であり、自分なりのプログラムを組むことが可能です。

長期・短期の国内・海外留学

当センター職員としての席を残しながらの3～6ヶ月の短期留学、あるいは、当センターを休職して1年以上の長期留学ももちろん可能です。留学後、当センターに戻り、得た知識や経験を還元することが原則ですが、お礼奉公的に、長期にわたり当センターに縛られることはありませんので、安心してください。下記に現在の協力施設を列記しますが、これに縛られずに自分に合うところを自分で見つけていただいても構いません。ご覧になればわかりますが、どこも内外で学んだ教育熱心な先生が主催されている選りすぐりの一流施設です。

留学先は以下の通りです。成人心臓麻酔：新東京病院、小児麻酔・小児心臓麻酔：埼玉県立小児医療センター、自治医大附属とちぎ子ども医療センター、産科麻酔：自治医大附属病院、感染症：自治医大感染症科、聖マリアンナ医大集中治療部、一般救急・集中治療：聖マリアンナ医大救急・集中治療部、呼吸療法を中心とした集中治療：東京女子医大集中治療部、地域医療：ゆきぐにやまと病院、外傷蘇生研究：マイアミ大学外傷センター

カンファレンス

1. 麻酔科：

- ・術前カンファレンス：月～金 7:30-8:15
- ・術前・術後個別症例検討：月～金 17:30-18:30
- ・ミニM&M：週一回 17:30-18:30

2. 集中治療部：

- ・ジャーナルクラブ：月 12:00-13:00
- ・リサーチカンファレンス：月2回 火 12:00-13:00
- ・科内M&M：月1回 火 12:00-13:00
- ・レジデント自主講義：水 12:00-13:00
- ・アテンディングレクチャー、ゲストレクチャー：木、金 12:00-13:00
- ・救急・総診・ICU合同M&M：月1回 月 19:30
- ・Dr.Leforによる教育回診：金 14:00-15:00

外部講師

外部講師を招き、講演や教育回診も行っております。現在決まっている本年度予定は、

- ・呼吸のフィジカルアセスメント：神戸百年記念病院 尾崎孝平先生
- ・急性肺障害の病態を考えた人工呼吸：東京女子医科大学 小谷 透先生
- ・鈍的外傷の初期評価と蘇生：マイアミ大学 Ara J Feinstein先生

研究

現在は臨床研究が主ですが、自治医科大学の基礎部門での基礎研究も可能です。現在進行中の研究プロジェクトは、

- ・集中治療専門医による心臓血管外科術後管理と医療効率
- ・肺動脈カテーテルと血小板凝集能
- ・バソプレッシンによる硬膜外麻酔の低血圧の予防
- ・術中アミノ酸輸液の体温維持
- ・集中治療における β ブロッカーの可能性
- ・集中治療における心エコーの利用

待遇・将来

シニアレジデント（臨床助手）として採用します。週1日の研究日が認められています。平均的給与は保証しますので、安心です。論文実績に応じて助教への昇任が可能です。

各種施設認定

麻酔認定病院、集中治療専門医研修認定施設、救急科専門医指定施設